

千葉大学主催「第20回高校生理科研究発表会」に参加！【優秀賞を受賞】

9月26日(土)、千葉大学西千葉キャンパスにて開催された「第20回高校生理科研究発表会」に、本校の「ヴェリタスⅢ探究」を選択している3年生3班(10名)が参加しました。

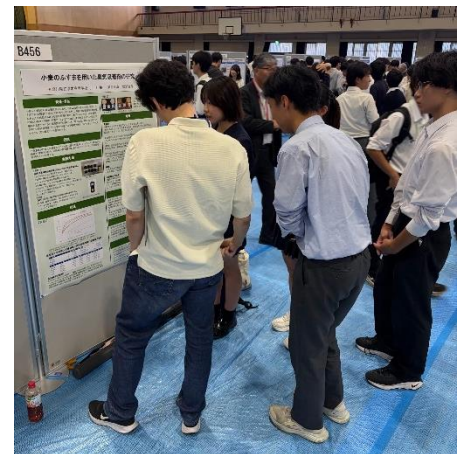
生徒たちは授業時間を通じてポスター作成などの発表準備を重ね、本番に臨みました。当日は大きな緊張も見せず、大学の先生方からの専門的な質問にも堂々と受け答えを行い、充実した達成感のある発表となりました。

後日行われた審査結果の発表では、本校の「小麦のふすまを用いた臭気吸着剤の研究」を発表した班が見事優秀賞を受賞いたしました！

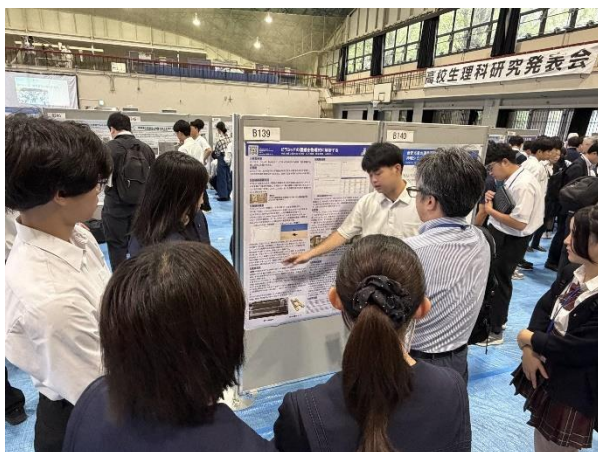
日頃の探究活動の成果が実を結ぶ素晴らしい機会となりました。今後も生徒たちの挑戦と探究心を応援してまいります。



テーマ【機能情報に基づくクマムシ由来遺伝子のスクリーニング】



テーマ【小麦のふすまを用いた臭気吸着剤の研究】



テーマ【ピラミッドの運搬を物理的に解析する】

3年生ならではの素晴らしい振り返りを書いてくれましたのでいくつか紹介します↓

今回の学会で様々な高校の様々な分野の発表を聞いて、スポーツ、あみだくじなど身近なテーマを理科に結びつけた研究に興味を引かれた。日々の生活の中で生まれた疑問を科学的に根拠を持って証明できるところが面白いと思った。正直自分たちの研究に自信がなくて、学会に参加する前は不安だったけど、大学の教授の方からアドバイスを頂けたり、思いの外褒めていただいて、新たな視点が生まれたり、大きな達成感を得たりすることができた。学会では本当にたくさんのことを得られると思うので、学会に興味があるのなら、自信がなくてもぜひ参加してみしてほしいです。

原稿を作って、しっかり覚えて、聞き取りやすいように話すのも大事だけど、もっと大事なのは自分が何を話したいかの大枠を決めて、相手の方を見ながら、ペースを合わせて話していくことだと思った。こっちの方が覚えることより難しいけど、しっかり伝わっているか確認をしながら話すことでリラックスしながら、話せている気がした。そして、柔軟性が高まる気がした。原稿に書いたことしか覚えてなければ、質問をされて答えられないとかも有り得るので、柔軟性は大事だと思った。また、ほかの人の発表を見て回ったけど、ポスターが目を引き発表班は聞きたいなと思ったので、デザインとタイトルはかなり大事だと感じた。

今回の発表を通して、研究内容を発表するだけでなく、聴いてくださった方と意見を交わすことの大切さを学びました。質問や会話の中で、自分たちだけでは気づくことのできなかった新しい視点を得たり、知らなかった知識を教えていただいたりすることができ、とても貴重な経験になりました。また、クマムシについて興味を持ってくださった方と研究について語り合えたことも、とても楽しかったです。

一方で、難しい内容を扱っていることもあり、自分たちが理解していることを、そのまま発表相手にも理解してもらうことの難しさを実感しました。用語などの補足説明などを適宜付け加えて、内容を理解してもらえるようにわかりやすく伝える努力をすることが大切だと思いました。

今回の経験を今後の研究活動にも生かし、専門的な内容であっても、聞く人の立場に立って分かりやすく伝えられるようにしていきたいです。